

授業方法について独自に工夫している点と、アンケート結果を受けての改善点【人文社会科学系】

初年次演習なので、どの大学でも同じような内容の科目で教えられていること、日本語教育ということで言語研究に関連した内容、この両方が含まれるようにしている。アンケート結果は、自分にとっては「どちらとも言えない」以上の評価になっているので、特に何か改善すべきことがあるとは思えないが、回答率が60%なので、あまり安心もできない。初年次演習では、論文を書く際の約束事なども教えるが、それを、卒論を書く4年生になるまでちゃんと覚えているかという点、まったくそういうことはなく、必要なことは改めて教えるしかない。レポートを書く際などにも役に立つはずだが、頭に残らないようである。

令和2年度前期は、これまでに経験のないオンラインでの授業を強いられて、最初の方はいくつかのトラブルに見舞われた。私はzoomなどの会議ツールやYouTubeの動画配信サービスを用いてリアルタイムの遠隔授業を実施したが、学生諸氏からは概ね好意的な評価を与えられたものと認識している

しかし、本来はアクティブ・ラーニングを交えつつ実施すべき授業に関しては、遠隔授業では物足りないという不満をもつ学生が多かったようである。また、遠隔授業では学生同士の交流が図れないという不満もあった。学生からのこれらの不満は理解可能である。できるだけ解消できるように今後工夫していきたい。

【独自に工夫している点】

新型コロナウイルス感染拡大の中、一方的に「対面式」「オンデマンド式」を決めるのではなく、学生の希望を尊重して、授業を実施した。さらに、学生それぞれの希望にも応じ、対面式やオンデマンド式を選択させた。手間はかかるが、学生にもそれぞれ事情があるため、それに応じる必要があると考えたからである。今後は、ますます内容面・方法面において、個に応じた授業が求められることになることが考えられることから、この方向性で進めていきたいと考えている

【アンケートをうけての改善点】

それぞれの希望を聞いていても判断が遅れがちになる。もっとはやくに判断してほしいなどの声も聞かれるため、今後は、これまでの経験をいかし、すみやかな判断、対応をしていきたいと思っている。

前期では、オンライン型の双方向授業と、オンデマンド型の動画授業の2種類を行った。オンライン型は主にゼミや演習での授業に用いたが、常に顔を出すことを求めたため、学生にも対面と同様の緊張感を与えることができた点が評価されているようだった。一方のオンデマンド型は、基本的に講義形式の授業で用いたが、普段からパワーポイントで90分講義するスタイルであるため、それを90分の動画にしてまなびネットで公開する形とした。その動画の中では常に右下の小窓に担当者である私の顔を映しながら、画面越しに学生に話しかけている雰囲気を出したため、学生も「見られている」と感じてとてもよかったようだ。また、課題は学生からメールで提出させ、そのつど受領の返事や質問への回答を行ったため、大学に来られない学生にとって、教員とのつながりを感じられたようである。

今年度前期ははじめての遠隔授業だったこともあり、詳しい説明入りの資料を作成すること、学生の質問に丁寧に答えることを心がけた。遠隔授業では学習効果を上げるため様々なやり方を試し、学生の反応を見ながら授業を行っていった。ただ同じ授業方式でも受講生によってまったく逆の意見が出ることもあり、対応の難しさを感じた。前期は一回で扱う分量が多すぎることがあったため、予習量などが多くならないよう気をつけたい。

遠隔授業のため、前期は主にオンデマンドによって授業を行った。アンケートでの自由記述欄に書かれていた意見はおおむね好意的なものだった。いくつか理由はあるが、課題提出の量が多かったのと引き替えに、それに対するフィードバックも充実させたことが共通の原因であると考えている。やる気のある学生にとっては個別指導に似た感覚を得られ、「より深く理解できた」という評価が多かった。ただし、これは学生・教員とも、課題(の解答とフィードバック)に十分な時間をかけられることが前提となる。学生については、能力はともかくとして、新しい授業形式に対する緊張感が下支えになったことは確かで、後期の授業においては、同様の形式で課題を実施しても、学生の積極性には明らかな低下が見られている。また教員については、研究時間を極端に圧迫することとなり、この形式での継続は難しい。これらの理由から、今後の遠隔授業については、特に課題の提出・フィードバック面について、機械的な採点が可能で、かつ学生のニーズにも応えられる課題方式などを考えたい。

遠隔授業であったため、ネットなどで調査できるように、指示を工夫した。しかしながら、アンケート結果では、新たな思考を得られたという項目に若干の留保が見られた。今後、遠隔授業であっても、新たな思考が得られるように工夫したい。

コロナ禍に見舞われた2020年度は、学生の皆さんにとっても教員にとっても初めての試みとして、まなびネットを利用しての遠隔授業になりました。本来なら教室で友達と意見を交換しながら自らの学びを深めるはずの所でしたが、一人ひとりがパソコンの前に座り、教科書と教員が用意した資料を見ながら課題をこなすことに終始しました。リアルタイムではなく、オンデマンドの授業だったため、一人ひとりが好きな時間に学習をすることになり、それがよかった人もいれば、生活のリズムが狂ってしまった人もいたことでしょう。毎回の課題は翌週に各自で採点してもらい、間違いに気づいてもらいました。e-ラーニングとTOEICの負担が大きいと感じた人もいたようですが、今後の英語の必要性も考えながら、教員同士でも相談します。単語テストをオンラインで行うことのよしあしについても検討します。

授業に対し工夫している点：

コミュニケーションなので話す技能が高まるよう一人一人に課題を出し、自分の英語を作ってもらいました。

今後の改善点：

前期は音声ファイルやTeamsを知らなかったことで、話すことを中心に授業ができなかったことが悔やまれます。その後、多少コミュニケーションが取れたと思うのですが、今後は、対面をしながらTeamsのフォームを使うなどして、話すことを中心とした授業と感染症対策の両方をうまくできるよう工夫をしていくつもりです。例えば、口頭のアンサーを音声ファイルに入れてもらい、それを課題としたり。経験がなかったことで学生には迷惑をかけた前期でしたが、そのことにより多くを学んだので、今後それを活かしていきます。

オンデマンド型の遠隔授業で、課題提示や解答提示にはかなり気を配ったつもりですが、やはり対面授業とは違い、直接質問したりそれに答えたりするといったことができず、学生とのコミュニケーションがとりづらいというのが実状でした。その点については学生からの残念な意見が多かったようです。オンデマンド型の遠隔授業の限界は感じていますが、今後の課題として考えていきたいと思っています。ただ、学生が個々に努力して毎回の課題に取り組んでくれたことは良かったと感じています。

急な遠隔対応だったため、こちらも不慣れで学生への指示が行き渡らない点もあったかと思う。ただ、授業自体は対面に近いかたちでの質はなるべく維持したつもりである。演習の授業のため、図書館での調査など制限が多かったことについてはもう少し工夫が必要だったと思われる。来年度がどうなるかわからないが、遠隔継続となった場合は、調査の指示をより具体的に出すように務めたい。

遠隔授業をオンデマンド方式で実施した。学生たちには、資料を熟読しつつ、ナレーション入りのパワーポイントを視聴し、課題に答えていただいた。原則として15回の授業で、それを繰り返した。とりたてて独自の工夫とは思わないが、学生の1人1人の意見にコメントし、すべての学生の意見とわたしのコメントを全員の学生が見られるようにした。それによって、オンデマンド方式とはいえ、学生相互のコミュニケーションも教員との交流もある程度は可能になったと考える。アンケート結果では、わたしが担当した3科目(S2が1科目、Mが2科目)のすべてにおいて、ネガティブな評価はなかった。

1 実践的な学習指導案の作成

毎回、テーマに基づいた授業資料を提示した上で、学習指導案の作成を課した。

2 課題に対する評価(数値とコメント)

提出してきた学生全員(前期5コマ 約250人)に毎回、3段階の数値評価とコメントをまなびネットを通じて返信した。

3 振り返りの充実

授業資料に前回の振り返りを行い、学生が作成した学びの多い指導案を紹介した。

(改善点)

- ・正直、毎週250名の指導案にコメントを送ることの時間的・精神的な苦しさがあった。
- ・指導案作成は、遠隔授業にマッチしているものの、やはり対面での模擬授業を行いたい。その意味でハイブリッド型の遠隔と対面を組み合わせた授業を行っていききたい。

前期に担当した4コマの授業について授業アンケートの結果を受け取りました。遠隔授業という条件が限られた中で学生が社会科教育の実践について主体的に考えるという目標はおおむね達成されたと考えます。その証拠としては、自分で問題点を深く考えた「ややそう思う・強くそう思う」の学生が4コマとも7割以上いるからです。多いコマでは実に87%が「深く考えた」に対して「ややそう思う・強くそう思う」と回答したからです。ただ、自由記述に指摘のあった点は授業の問題点として重要です。私は、教科書の指定した頁について指導案を書いて提出を求めましたが、指導案を書くこと自体の負担とそれに対するフィードバックの少なさ(一部の学生にはフィードバックしました)です。後期の授業では、前期の倍以上フィードバックしましたが、前期は確かに少なかったと反省します。負担軽減については、指導案を書く回数を減らす工夫をします。フィードバックについては、何らかの工夫を凝らして、提出した全員にフィードバックすることを考えて改善しようと考えています。

演習は教育実習の予行演習の意味合いをもたせ担当者に板書を義務付けている。結果的に対面を重視することになった。その点が理解できておらず、対面は無意味であるとの記述があり残念であった。当該学生と話をした際に本人は教員志望ではないことが分かった。教員志望ではない学生にとってはコロナの恐怖の方が優ったのであろう。概説は唯一の対面授業ということで理解度が高く、対面を評価する記述もあった。平均点も70点で大部分の学生が平均以上であった。

国語科の「話す・聞く」「書く」「読む」「書写」、すべての領域を扱って授業を行った。パワーポイントの内容を、できる限り見やすくして、キーワードを示した。書写の授業は、実技を伴うので、動画配信し、書写体操や筆の動きを分かりやすく示した。前期は、課題提出に対して同じ比重で評価した。個々にコメントすることがなかったので、学生にとっては物足りなかったと思う。後期は、5回の課題に対して、コメントを返した。10回のレポート提出に対しては、点検をし、全体にコメントをした。

○工夫点

- ・分かりやすい説明資料の作成
- ・取り組みやすいワークシートの作成
- ・振り返りによる疑問・戸惑いなどの吸い上げ
- ・便りの発行で質問等の回答
- ・毎時間の課題の評価フィードバック

・他学生の考えを資料に提示

○アンケート結果を受けて

- ・学生資料の提示参考になった → 今後も継続、さらに増やす
- ・課題が多い → もう少し段階的に課題を提出するように改善
- ・マンネリ化 → 繰り返すだけでなく、新しい視点を加えた課題の出題

今年度前期は初めてオンラインにて授業を行いました。試行錯誤の連続でした。その中でも、共通科目の英語授業では、少しでも会話の授業ができるように、Zoomを用いて行うようにしたのは良かったのではないかと思います。ブレイクアウトルームの機能を用いることによって、強制的に会話する環境が作れたため、対面式の授業に勝るとも劣らないものであったと感じます。

2020年度前期の授業はオンデマンドの遠隔授業となったため、資料と課題用紙の作成、及び課題のフィードバックに力を注いだ。資料については、語句や表現、文法を色分けし、和訳を付して解説したパワーポイントを提示した。課題用紙も、解答欄を設けた文書を配布し、記入がスムーズに行えるよう配慮した。また、フィードバックコメント欄には時間の許す限り、個別の助言や正解へのヒントを記入するよう努めた。これらの作業には膨大な時間と労力を要したが、アンケートでは好意的な感想が多く寄せられ、苦勞が報われた思いである。その一方で、他の履修者と英語で意見交換したかったという希望も述べられており、今後、オンデマンドという枠組みの中でどのように応えていくか検討する必要がある。なお、アンケートでは「まなびネット」の操作法の説明が不十分との指摘もあったが、教員側も、配布された教員画面用マニュアルのみを頼りに授業をしているため、学生画面の操作方法まで含めた詳しい指導を行うことができない。担当科目の学修内容に関する指導や質問対応は行えるが、「まなびネット」の操作の知識は限られている点、ご理解いただければ幸いである。

2020年度前期は、新型コロナウイルスによって講義開始が遅れ、さらにオンデマンド型という形態によって資料が膨大になってしまった。それは、対面とは異なる場合、出席代わりに課題を求めるというスタイルではなく、講義の疑問点を求めるというスタイルにしたためにもよる。疑問点を受けて、それら質問に丁寧に答えたかったため、質問と回答のみで数ページに及ぶ場合もあった。また、徐々に資料作成で音声を取り入れるなどしたため、資料作成とその提示が遅くなってしまった。これらは、次年度に向けての反省材料である。初めてオンデマンドでの遠隔授業等を行い反省することは多い。学内外での知見等も学びながら、この形態でどのように相互の学びや次への学びの動機付けになる学びを行い得るのかという点について、次年度以降、改善していきたい。

授業ごとに方法が異なりましたが、対面にする場合にはできるだけ不安を払拭できるような工夫をしなければいけないなと思いました。

参加型学習(アクティブラーニング)で授業を進めたいと思っておりますが、前期はすべて遠隔授業となったため、1回の授業プログラムを数回に分けて、授業のふり返りを丁寧にして学生の意見を共有させたいと、次の内容に進むなど工夫はしましたが、十分とは言えず限界がありました。学生にも残念な思いをさせたと思います。後期は対面授業も可能になったので、無理のない範囲でできるだけ対面授業を入れました。対面授業では毎回「その授業の振り返り」を書かせます。学生はやはり対面授業の方が楽しく学びも多いようです。

オンデマンド授業のレジュメは、教室において学生に語り掛けるような文体で作成しました。重要な個所の箇条書きでは、授業内容を正確に理解できない学生が出てくるからです。また毎回の授業でアンケートを実施し、レジュメの読みやすさと授業内容についての学生の意見を確認して以降の授業内容に反映させました。しかしアンケートを見る限り、それでもうまくこちらの意図を掴めない学生がいるようなので、今後はより細やかに学生の理解度や授業への意見を確認してゆきたいです。

毎週の授業はまなびネットを通じたスライド(ppt)配布という形で行いました。対面時の授業感覚に寄せるために、すべてのスライドに解説音声をつけました。受講生からは分かりやすかったというようなコメントをいただきました。また、フィードバックも可能な限り丁寧に行ったと思います。ただ、やはり発音に不安を感じる受講生がいたようで、今後は遠隔でも発音を指導できる方法を考えてみたいですね。

教職科目・共通科目を担当した。

学生さんは、「まなびネット」で学んでいることがある反面、学生が「自習を受けている感じがかった」という指摘を受け、反省すべきことだと感じている。一方で、「さまざまな文章等に当たって良かった」という反応もあった。

個人的な感想は以下の通りです。

「まなびネット」による授業展開を経験する中で、授業におけるパワーポイント作成に一定の労力がかかるが、パワーポイントのみだと「学生さんは 自習的な雰囲気」を強く受けるのですね。

一方で、前期とは異なり 現在行っている後期授業では、前期の反省を踏まえて動画作成を加えて行っている。「パワーポイント」だけでは伝わらない内容も多いのかと感じている。

ただし、丁寧な動画作成では、撮り直しを何度も繰り返す中で、精選化した授業につながるのだと感じている。学生さん達の率直な声に、少しでも応えていかないとイケないというのが実感です。

担当している全授業のアンケート結果を見たが、いずれも問題ないと判断した。まずまずではないか。2010年からはじめたYouTubeの動画講義が現在100本以上になっており、それが役立っていると思う。今後もこの路線でいきたい。

自由記述欄で挙げられた「和訳よりも文法変化の問題を出してほしい」との要望についてはその通りだと思うので、できるだけその日に扱った文法事項の確認になるような問題を作りたいと考える。

アンケートとは関係なく、今年度初めて経験したオンライン授業での工夫について報告する。私の場合、オンデマンド型で講義音声と授業レジュメを学びネットに上げるといって、いわゆるラジオ講座式を採用したが、一番苦労したのは課題の内容である。いくつか試行錯誤のうえ、課題には教科書やレジュメには書いていないが、講義音声を聴けばヒントが得られる内容のものを出す、というやり方に落ち着いた。講義を聴かなくても簡単に解答できるような課題では、講義をまともに聞かない学生もいることが分かったからである。また、課題は講義を聴いた上で30分以内にできるレベルに限定した。

オンラインでの講義時間を短くして、各自でインターネットを駆使して資料や図版を探す時間を多く必要とする講義とした。これは、馴染みの少ない内容に対して、学生自身が興味を持って調べを促すためのものであり、芸術の歴史である以上、文化や政治等の多岐にわたる内容を踏まえて考察をさせたいためである。

また、国語の教員免許も取得することを前提として考えているため、高校国語の授業内容に関連しそうな歴史や文化についても触れている。そのため事前学習と事後学習を増やす形を取らざるを得なかった。

アンケートにもあったが、資料の妥当性・正当性がインターネット上にあるものを用いて調べるしかなかったので、今回については難しかったと思う。本来であれば、書籍を図書館等で調べつつ、インターネットでの調査でフォローする形をとっていたが、前期については、不要不急の外出が制限されていたため、致し方ないと思う。ただ、教員を目指す者にとって、インターネットから資料を適切に集めて考察したり、その資料の適切性や選定を考慮したりといった作業については、今後の教育現場で必須のスキルであるため、練習と思って取り組んでいただきたい。

今後は、複数人で話し合っ考えさせる講義を展開できるよう考えたい。前期のオンデマンドの講義用にデータを変換しながら作っていたので、話し合いなどの機会を作ることが難しく、また方法を吟味する時間も少なかった。少人数グループでの活動を増やし、話し合いの時間も取れると良かったように思う。

本授業は演習形式ではあるものの、学生のインターネット環境、またはその負担を考慮して、オンデマンド型とリアルタイム型を組み合わせるタイプの授業を実施した。事前に発表担当者のレジュメをオンデマンド型で全員が読み込み、議論のみリアルタイムで行なうというものである。こうすることによって、受講生同士の活発な議論を行えるように工夫した。

アンケート結果をみると、やはりリアルタイムでの話し合いや議論ができたのはよかったようだ。インターネットのインフラ環境にもよるが、今後遠隔授業を実施する場合はやはり一部でもリアルタイム型を組み込みたいと考えている。

他方で、手さぐりの遠隔授業であったため、通常の対面授業とは異なる点もあった。授業への取り組み方は対面授業でも学生によって当然差があるが、遠隔になったことで顔を出さずに済むようになり、それが契機となってなかなか議論に参加しない・できない学生も少数いたようだ。議論への参加を呼びかけるなどしたが、このあたりは何か対策を考えたい。たとえば、他の受講生の発表に対しての意見を求めるだけでなく、各受講生に作業をさせる・インターネットを使ってその場で調べさせ、その結果を授業中に提示させるなど、授業に集中できる・発言しやすい環境作り(発言できるものがある授業作り)を行なうなどする。

【独自に工夫している点】

授業がオンラインでの実施となり、手さぐり状態での授業準備となりました。そのような中、いろんな方から知恵をお借りして準備をしましたので「独自の工夫」とは言えないと思いますが、授業は動画を配信する方法を採り、授業1回分の動画をトピックごとに2~3本に分けるなどの工夫を行いました。また音声も聞き取りやすいように発音することを心がけました。

【アンケート結果を受けての改善点】

問1と問2では、「強くそう思う」と「ややそう思う」の合計が、それぞれ69%と68%でした。この結果を受け、今後はこの比率を高めることができるよう、受講者が身近に感じられる経済問題を取り上げるように努力します。

自由記述欄では、「小テストの計算問題などが解説されないことなどは不完全燃焼感が残る」とのご意見がありましたので、今後は小テストの計算問題の解説を行います。また、「授業時間が短かったのが良くなかった」とのご意見も頂きましたので、今後は授業時間をより長く取りたいと思います。他方、「授業動画が見やすくテストの形式も分かりやすかった」や「動画も短く分かれていたので集中できた」とのご感想も頂きました。もし今後も遠隔授業が実施される場合、今回の形式をブラッシュ・アップして参りたいと思います。

(独自の工夫)

・PowerPointでの授業を計画したが、できるだけ丁寧な説明をつけ、分かりやすく伝わるように作成することを心がけた。

(アンケート結果を受けての改善点)

・急な遠隔授業への転換で、うまく学びネットを使いこなすことができず、教材の準備に時間がかかってしまったので、もう少し教材を精選したい。

・互いの意見を聞く機会がなかったので、その機会がほしかった……という指摘があったので、この反省を生かし、後期の演習授業ではレジュメを互いに読み合えるような工夫を凝らして授業をすすめている。

(独自の工夫)

- ・PowerPointでの授業を計画したが、できるだけ分かりやすく伝わるように作成することを心がけた。
- ・画像が長くなりすぎないように気を遣った。

(アンケート結果を受けての改善点)

- ・オンデマンド教材評価はまずまずであったが、学生の理解度については、いまいっつかみきれなかったもので、もう少し授業方法に工夫が必要であった。
- ・急な遠隔授業への転換で、うまく学びネットを使いこなすことができなかつたので、もう少し慣れておきたい。

授業に対し工夫している点:

コミュニケーションなので話す技能が高まるよう一人一人に課題を出し、自分の英語を作ってもらいました。

今後の改善点:前期は音声ファイルやTeamsを知らなかつたことで、話すことを中心に授業ができなかつたことが悔やまれます。その後、多少コミュニケーションが取れたと思うのですが、今後は、対面をしながらTeamsのフォームを使うなどして、話すことを中心とした授業と感染症対策の両方をうまくできるよう工夫をしていくつもりです。例えば、口頭のアンサーを音声ファイルに入れてもらい、それを課題としたり。経験がなかつたことで学生には迷惑をかけた前期でしたが、そのことにより多くを学んだので、今後それを活かしていきます。

【初年次演習】

① 独自に工夫している点

- ・毎回、「本時の取り組み」を明確に示し、要所要所でこの授業における到達目標を確認できるようにしている。どのような力をつける取り組みなのかを学生が常に意識して臨めるよう心掛けている。
- ・PowerPointは、見やすく、分かりやすいスライドになるよう努めた。

② 改善点

- ・音声を付けたPowerPointによる授業スライドで、過不足なく伝えることは難しい。現在も紹介しているが、授業のスライド上に参考資料、参考文献名をこまめに載せ、各自の学びに生かせるようにしたい。

【初等国語科教育内容A I】

① 独自に工夫している点

- ・学習課題や取り組み結果を素材にして、クラス全体に向けたフィードバックを実施し、各自の取り組み内容をクラス全体で共有できるよう心掛けた。

② 改善点

- ・毎回、授業での取り組みを学習課題にして提出させている。授業回2~3回に1回課題を出す方法は、学生が考えたり、内容について認識を深めたりすることができるため、2年生では単元ごとに1つの課題に取り組みさせる方法も考えている。授業回ごとの質問や学生の意見を授業にどのように反映させるかという点も踏まえ、今までと違う取り組みも採り入れていきたい。

非常勤講師を始めてから半年後、突然、遠隔授業になると言われて、左も右も分からないまま遠隔授業の準備に入りました。まずは、学びネットやパワーポイントの勉強を始めました。カメラに向かって話すことが上手ではない私は、パワーポイントのスライドショーだったら、ビデオよりうまく内容を伝えるだろうと思って、また学生さんは自由に一旦停止などができると思って、講義をスライドショーにしました。最初は、後期の授業のやり方から大きく離れないようにしたり、できるだけ学生さんに教室にいると感じさせたりしましたが、どうしても対面授業と比べると限界がありました。特に、学生とのコミュニケーションが難しくなりました。そのときに、解決方法として、メールやラインを使い始めました。メールやラインを通じていただいたコメントや質問などに直接答えたり、次の講義に内容として追加したりしました。また、課題のフィードバックも積極的にやりました。学びネットや成績の付け方など、自分で解決できないときは、大学の方に相談し、助けていただきました。前期は、後期と比べると、文法がかなり複雑で難しくなつたと思います。解決方法として、スライドだからこその独自で考えた「パズル」という文章の作り方を使うことができました。その結果、遠隔授業であっても、学生さんはポルトガル語を「聞く」、「話す」、「読む」、「書く」ことができるようになったと思います。ただし、学生さんよりも、この経験は私にとって大変勉強になりました。こうすればよかった、もっと調べたらよかった、もっと相談すればよかったなど、満足していないところもありますが、あの時、あの状態においては精いっぱい努力して、できることをやりました。これからも精一杯努力して、将来学生さんが先生になったときに役立つポルトガル語を教えていきたいと思っています。

遠隔授業への不満としては、発音練習が確認してもらえないために有効にできないこと、わからないことを対面のようにすぐには質問できないことの二点に集中していた。

ともに事前に予想された問題点であったが、前者については、オンデマンド型の遠隔授業においては形式上解決が難しいため本年度においては有効な手は打てなかった。後者については、課題の誤答傾向をふまえて、授業冒頭で解説を設けることで疑問点の解消をはかった。これ自体はコメントにおいても評価の声があり、今後も継続したいと考えている。また、掲示板やメールなどで質問はうけつけており、実際に幾度か質問は寄せられたがやはり対面時のような質問のしやすさを確保することは難しい。

次年度以降も遠隔授業が継続される場合、オンデマンド型の課題提示と並行して、zoom等で発音練習や、質問ができる時間帯を設定した方が良いのかもしれない。

自己評価のみならず、他者評価でも推進することに意義があるメソッドの開発をいたしました。

●・アンケート結果を受けての改善点

- ①課題の量を、2020年度前期よりもさらに減らすこと
- ②開講日より数日前にオンデマンド課題を明らかにすること
- ③録画は、毎回20分以内で作成すること

●・独自に工夫している点

①2020年度前期には1テーマの課題について、以下の5セットを準備しました。1コマの授業では、平均3テーマを取り上げて進行させました。

【資料(PDF)】: 授業での概要

【録画(資料をもとに音声つき解説)】+【録画の印刷用ファイル】

【課題の書き方説明や例示付きワークシート(テンプレート)】

【課題を終えたあとの学生の課題を紹介しつつ、解説ファイル】

【最終課題を終えた後、学生の学びを整理して紹介録画】

2020年度にオンデマンド型で学習した学生と、対面型で学習した学生では、その方法理解に関して、大きな違いなく理解されたことが明らかになりました。その件に関しては、2020年9月日本読書学会にて口頭発表しました。発表題目:「オンデマンドを活用した大学初年次の読書授業の可能性」

②2021年度、独自に工夫したい点

➢・①をすべてオンデマンド型で行うことは、教員負担だけが増大し、学生同士で学べないことへの不満は変わりません。そこで、学生間交流を増やせるように、状況が許せば対面型も取り入れ、さらに双方向型のONLINEを増やし、Hybrid型で進める予定です。

➢・図書館で実際に本に触れることが重要なので、2021年1月現在、「リザーブブック制」を図書館にお願いしています。60分間で1冊の新書を俯瞰的に読むメソッドの開発・実践「あらましメソッド」を活用する予定です。

➢・2020年9月から、愛知教育大学附属図書館のご協力を得て、定期的に月に2回程度ONLINEで「新書を読む会」を継続しています。愛知教育大学附属図書館を窓口にして、2020年11月には「図書館総合展ONLINE」に出展し、日本全国の学生・高大の教員・高大の図書館・出版社・企業から60名ほどの参加をいただきました。地域の研究会実施も行う予定です。

受講者自身に問いが浮かび、授業内で解決できる循環が生まれるように工夫している。

講義形式の授業は、概して演習形式のそれに比べて受講者の積極的な授業参加の様子がうかがいにくい。なぜそれを取り上げるのか理解を深めた上で入ったり、自身の頭で考える機会を設けたりすることなどによって、工夫を心掛けたい。

授業アンケートの結果では、「問1 授業で指示された課題・参考文献・資料などを自ら参照した上で、自分で問題点を深く考えた。さらに、その考えに基づき行動した。」については、「強くそう思う 33% 1人・ややそう思う 33% 1人・どちらともいえない 33% 1人」であった。

「問2 授業を受けた上で、自ら関連項目について文献やインターネットなどで調査し、新たな思考を展開した。さらに、その思考に基づき行動した。」については、「強くそう思う 67% 2人・ややそう思う 33% 1人」であった。

自由記述では、「Teamsを活用した授業がたいへん有意義でした。指導案や単元計画づくりなどは、今後の学修へのステップアップだと思い取り組むことができました。」「前期の間ありがとうございました。」という意見だった。

はじめの遠隔授業で、いろいろと制約が多かったにもかかわらず、受講生は真摯に課題に取り組み、まなびネットやTeamsを上手く活用して社会科教材研究に取り組んでくれた。授業方法について工夫した点は、前半で社会科の教材研究に関連する理論的な論文を丁寧に読み込んで検討を繰り返し、後半で理論をふまえた単元計画や指導案、教材の作成に取り組み、小グループによるディスカッション形式での発表会をTeamsで開催したことで、学んだことを活かすような授業を展開することができた。特に心掛けた点は、学生の学びへのフォローアップや声掛けを欠かさずに行ったり、良いところをほめて、後期の教育実習への意欲につなげたりしたことである。

遠隔授業となったため、フィードバックを一人ひとりに対して、例年とは比べられないほど細かく丁寧にいった。例年のように、グループ活動ができなかったため、学生は一人で課題をやらなければならない、課題の負担は重くなった。その結果、成績上位者には、実力がついたことが実感できたようで感謝された。その一方で、課題の負担が重すぎるという不満を訴えた学生もいた。ただ、この科目を20年ほど担当しているが、学生の提出した課題のレベルは、過去最高で、感動するほど高い水準だった。感想にもあったように、フィードバックを支えに学生が奮闘した結果だと思う。今後は、課題に苦しむ学生に、手をさしのべることができるように心がけたい。

独自に工夫した点

* 初めて担当する科目であり、学生にとって重要な科目であることから、春休みから非常に長い時間をかけて、講義資料と音声付パワーポイントの動画の準備をした。

* 小学校で英語を教えるにあたって実践的な教育力がつくことを目標に、ミニ指導案の課題を毎回課した。

改善点

* 大半の学生が真面目に課題に取り組み、講義を肯定的にとらえている点は良かったが、課題が多すぎるという指摘があり、もう少し課題を減らしてもよいかと思う。

* 動画作成に時間をかけすぎ、十分なフィードバックができなかったため、1)できる範囲でもう少しフィードバックの回数を増やす。2)学生が自己評価できるような判断基準を明確にする。の二点を心掛けたい。

独自に工夫した点

* 遠隔でも学生がコミュニケーションの勉強ができるように、音声付パワーポイントスライドを講義の回数分、非常に時間をかけて、学習しやすいように細かい工夫を入れて作った。

改善点

* アンケート結果からは、大半の学生が講義に真面目に取り組み、肯定的にとらえている様子が分かった。

* 課題の負担が多かったようなので、今後遠隔講義をする機会があれば、もう少し負荷を下げてよいかと思った。

* 動画作成に時間がかかりすぎてフィードバックが十分にできなかった。一人ひとりへのフィードバックは時間的に無理があるので、クラス全体へフィードバックをしたつもりだったが、その説明が十分理解されなかったように思う。

独自の工夫の一点目として、社会科・公民科に共通する教育目標として、「持続可能な開発目標(SDGs)」を意識した講義内容としたことが挙げられる。新学習指導要領においても、SDGsは教育目標として認識されており、小学校6年生の教科書でも言及されている。公民科においては学習指導要領解説において、SDGsの視点に立つべきことが述べられている。二点目として、今年度の日本全国における休校措置に鑑みて、試験に替えてのレポートは「自宅学習用の遠隔教材の作成」とした。具体的には、休校中を想定して児童・生徒が自宅からインターネットを利用して自宅学習を行う際のコンテンツを作成させるもので、ノート説明付きのパワーポイント教材を作成するという内容であった。本来は動画での提出としたかったが、まなびネットのサーバのデータ容量の制限があるため、説明部分はパワーポイントのノート機能を利用して文字で記載させた。

学生のアンケート結果に関しては、前期の講座において、まなびネットでのコメント欄が「フィードバックコメント」と「提出コメント」の二種類あり、どちらでコメントすべきなのかが不明であったため、コメントを返す回数が不十分になってしまった。後期においては、課題の採点とともに毎回フィードバックコメントを返している。また、前期において課題の量が多すぎるとの学生からの意見が最終回における講座独自のアンケートで判明したため、後期では課題の量を軽減した。受講生に対しては、前後期ともに授業の感想を問うアンケートを独自に実施したが、前期の授業①における小学生を対象とした社会科教育法の内容としては、やや難しいと回答した学生が多かった。そこで後期の同授業においては、より実践的な内容を中心とする授業改善をおこなった。学生からメールが来た場合にはすぐに回答している。後期の講義においては講義開始の早い時期に、講義の難易度を問うアンケートを実施した。その結果、授業①においても改善が見られ、授業②は高等学校の公民科を主な対象としたより高度な内容だったが、受講生は社会科専攻学生を中心としていたため、大部分の学生が概ね理解できると回答していた。

①

・オンラインで行ったことにより、授業の録画を使い自分のペースで考えて復習することができたようであるため、来年度対面で行う際は、学生がそれぞれ復習できるような工夫を行いたいと思います。

・本来前期の科目であったが、小学校での実習ができなかったために、学校での教壇実習だけが後期となり、コロナウイルス感染拡大の中での実習ができるかどうかという不安があったようです。後期に何とか実習をすることができていますが、このような状況での実習にあたっては、不安に感じていた学生もいたと思われます。今後、同じような状況下での実習をどうしていくかは、検討する必要があると感じます。

②

・リアルタイムオンラインの授業で、エクセルを使用しての授業であったため、学生各自がそれぞれパソコンで作業を行ったが、うまく操作できない学生への対応ができない場合があった。個別に対応する時間を設けたため、問題の解決ができたが、対面の場合も個別に質問する時間を授業時間外に設ける必要があると感じたので、そのような配慮をしようと思います。

・オンラインということで、実際に質問する機会がなかったので、担当教員に質問できる工夫が必要だと思います。

・多くの教員によるオムニバスのオンライン授業であったため、録画環境が悪く音声が聞き取れない、画像が反射して見えない等の授業がありました。来年度については録画方法等を担当教員に提案するなどして、改善したいと思います。

・すべての「外国人児童生徒」に対しての見解と受け取られるような発言があったと思われるかもしれません。これについては最初のガイダンスの時に、「あくまで傾向であり、すべての外国人児童生徒を指しているものではない」という話をする必要があると思います。

・すべての授業を、授業期間中いつでも見られるように、各教員に依頼したいと思います。

今年度は、初めての遠隔授業に挑戦した。まなびネットを活用することが出来たので、次年度にもこの経験を活かしたい。WEB情報も活用したので、新たな学びにつながっていると思われる。

前期遠隔授業でのアンケートであったが、各科目問1・問2とも「強くそう思う」「ややそう思う」が多いことに逆に驚いた。ただし、1年生は「どちらともいえない」が多いことも確かである。今後は、遠隔と対面を併用したハイブリッド型になっていくものと推測されるが、遠隔の場合学生の提出した内容にどのように反応し評価していくかが課題であると思われる。また、対面で授業を行うことの利点を最大限生かすことも求められると考える。

遠隔授業においては、授業講義を聴いて、課題をするだけでなく、学生と教員、学生同士がどのようにしたら、「インタラクティブに活動」できるかを考えた。

授業は、基本的には教師が作成した授業動画の配信、課題、教科書の学習、学生のグループ活動と発表、発表に対するコメント等の投稿、それを踏まえたフィードバック動画の配信等の方法を通じて実施した。幸い、前期はリアルタイムの授業が可能であったので、TEAMSによる発表やグループ活動を授業の一部に取り入れることができたので、遠隔操作を通じた発表の練習にもなった。

日本語教育系の科目の授業内容は、オンラインでどのように教育実習ができるかを追求した。本来は教壇での模擬授業をする予定であったが、オンラインでの「オンライン授業づくりの実習」とした。学生、教員ともにその方法を模索しながらの実践であったが、通常とは異なる学修ができたこと、多くの課題が見つかったことが成果と考えている。

オンライン授業で特に配慮したことは、学生のモチベーションをどのように保つかということである。授業の内容が単純にならないように、講義の他に資料や動画等を用意した。しかし、視聴率の低いものもあったので、教材の作り方に改善が必要である。フィードバックとして、フォーラムで印象に残った考察や意見等を学生に選ばせ、毎回表彰した授業もある。学修状況は、学びネットの学習履歴等を見て、アクセス状況や課題の達成の状況を確認した。同じ科目でも1年生は最後までついてきたが、2年生には脱落者が何名か出てしまった。励ましメールを送っても、このような学生からは大抵の場合返答がないので、対応に苦慮した。

今後の課題は、学生からのコメントをもとに授業方法や内容をより興味を持てる提示の方法に改善していくこと、及び、フィードバックの充実である。特に50名以上のクラスでは、個々の学生に対して必ずしも十分にフィードバックができたとは言えない。学びネットのシステムをどのように利用したらよいかを考える必要がある。また、オンライン教材の作成には、映像編集などの様々な技術が必要で、そちらの知識の構築も課題である。学生アンケートの結果を参考にして、学生が喜ぶ授業動画を作成したい。

まず言い訳になってしまいますが、初めて担当する授業科目において、年度当初から通常授業形態ではなくオンデマンドとなったことにかなり戸惑いました。

「授業者の顔は見えないまでも、声だけは届けたい」「テキストと音声を通して、『ラジオ講座』のような授業が展開したい」と考え、それを行ってきました。録音が聞きづらい等があれば、学生のみなさんに申し訳なく思います。

学部4年生の指導法の授業であるため、これまでのCⅠからCⅢの学びを総括し、次年度直面するかもしれない実際の学校現場を想定して、例えば「この場面ではCⅡで学んだ●●という知識を活用すれば、適切な教育を行うことができるのではないか」というような学びが得られるような展開を考えていました。しかし、リアルタイムのオンライン授業等を行わなかったことから、これらの学びの機会を学生から奪ってしまったように思います。

また、私からの一方的な講義が多くなってしまい、学生同士の交流の期間を十分に設けていなかったこと、さらに私からのフィードバックもしていなかったこと等、対話的な学びの要素がなかったこと、また、学生さんの学びを深めることができなかったことを、申し訳なく思います。

改善点としては、まずは対面で授業を行うことができるように、大きな教室を確保していきたいと思います。それが難しい場合は、一クラスをA、Bの2グループに分け、対面とオンデマンドの授業を交互に展開するようにしたいと思います。元現場教員として、机間指導を通して指導をしたり、適宜指導すべき場面を見つけてタイミングよく思考させる機会をもったりしていきたいと思います。

授業内容と教科書の特質上、技能練習(発音やSpeaking、Listening等)を本来行う必要がありました。また、短い時間になったと思いますが、模擬授業を行おうと考えていました。しかし、リアルタイムのオンライン授業を開講しなかったことから、こういった学びの機会を学生に提供することができませんでした。英語の発音が不安という意見を目にし、大変申し訳なかったと思います。

次年度に向けた改善点としては、本年度後期から授業に組み込んでいる「対面による指導」を本科目でも行っていきたいと考えています。一教室に全員が入ることができないので、一クラスをA、Bの2グループに分け、対面とオンデマンドの授業を交互に展開し、対面授業の際に、技能に関わる授業を行いたいと思います。

指導法という科目の性格上、本来は「場面指導」や「模擬授業」を行う必要がありました。しかし、リアルタイムのオンライン授業等を行わなかったことから、これらの学びの機会を学生から奪ってしまったように思います。また、私からの一方的な講義が多くなってしまい、学生同士の交流の期間をほとんど設けていなかったこと、さらに私からのフィードバックもしていなかったこと等、対話的な学びの要素がなかったことを、申し訳なく思います。

改善点としては、後期の授業で行っている「対面授業」を部分的に取り入れていきたいと思います。次年度も教室入室に関する人数の制限があるとのことですので、一クラスをA、Bの2グループに分け、対面とオンデマンドの授業を交互に展開するようにしたいと思います。また、iPadに「場面指導」や「模擬授業」を録画させるということも現在行っています。改善の余地はまだありますが、まずは上記のような授業を展開していきたいと考えています。

回答者数が少ないため、受講者全体の状況が捉えにくいところもあるが、アンケートの結果を見る限りでは、課題・配付資料などを参照しながら、自ら問題について考えるとともに、関連項目を調べたりして、新たな思考を広げることにつながる事が出来たようである。

個々の興味関心に応じた課題の設定をしていることもあり、オンラインでの授業実施では、個別の課題の探究に応じた指導が充分出来ないところがある。今後、オンラインにて授業を実施する際には、WEBカメラなども用いながら、個別の対応を増やしていきたい。

コロナ禍の中、前半は学びネットでのテキストと課題の配信による授業で、個々への指導が十分出来なかったところもあるが、後半ではteamsでの添削等と対面授業を兼ね合わせて実施したこともあり、アンケートの結果を見る限りでは、課題・配付資料などを参照しながら、自ら問題について深く考えたり、関連項目を調べたりして、新たな思考を広げることにつながる事が出来たようである。

学びネットでの授業時に授業内容と方法について希望調査した中で、添削指導を希望する声が多くあったことから、授業後半ではTeamsを用いた授業を取り入れ、個別の質問への対応やWEBカメラを通して実技指導を行った。また、日程調整を行い、変則的ではあったものの、受講生からの希望が多かった対面授業を3回実施することによって、teamsでの授業では解決出来なかった疑問点や細かな実技指導を行い、少しでも個々の問題が解決出来るよう工夫した。

しかし、teamsでの対応においては、順番待ちの時間が多くなった点は改善を要するところであり、今後、オンライン授業を実施する際には、指導の時間指定を行うなどの検討をしていきたい。

コロナ禍の中、前半は学びネットでのテキストと課題の配信による授業で、個々への指導が十分出来なかったところもあるが、後半では対面授業を実施したこともあり、アンケートの結果を見る限りでは、課題・配付資料などを参照しながら、自ら問題について考えることは出来たようである。しかし、関連項目を調べたりして、新たな思考を広げることにつながる事の難しさがあったようである。

前半は、学びネットにて、テキストとして使用した書論の指定範囲を現代語訳する活動が中心となり、用語の説明や関連する書道技法の解説などを後半の対面授業の際に行ったこともあり、毎回の授業における講読範囲の回答がすぐに分かからず、書道理論への理解が深まりにくかったようである。

今後、オンラインでの授業を実施する場合は、講読範囲の解釈や書道理論の解説をまとめて行うのではなく、毎回の授業において、講読範囲ごとに行うことにより、書論の読み深めと関連する書道理論への理解を同時に行えるようにしていきたい。

闇雲に講義の文章化したものを送信することしかできなかった頼りない教員に対して、それを読んで、何かを得るための努力を払ってくれた学生諸氏には感謝するしかない。おそらく、教員などよりも学生の方が、はるかに不安と不満が大きかったはずであるのに、未熟な教員の暗中模索に付き合う努力を払ってくれた学生への敬意と感謝だけが、今回の前期授業について、感じていることである。

①
今期はオンラインの授業であったため、できるだけ読み易いスライド作成を心掛けた。また、英語の理解力を高めるため、課題等の説明は全て英文で行い、課題へのフィードバックも頻繁に行った。

アンケートの回答率が5割弱なので判断が難しいが、回答した者のうち9割以上が問1に肯定的な回答をしていること、また問2には8割が肯定的な回答をしていること、さらに記述欄でもオンデマンドの資料提示やフィードバックに高評価が見られることを踏まえると、授業としてはかなりうまくいったと考えている。特に改善点は考えていない。

②
今期はオンラインの授業であったため、できるだけ読み易いスライド作成を心掛けた。また、課題へのフィードバックも頻繁に行った。

アンケートの回答率が4割程度なので判断がかなり難しいが、回答した者のうち7割以上が問1と問2に肯定的な回答をしていることを踏まえると、授業としては概ねうまくいったと考えている。

改善点としては、自由記述欄で文学において解答を限定することへの批判的意見があった。自分としてはそのような意識はなかったのですが、今後説明等により丁寧な工夫が必要であると考えている。

③
演習の授業をオンラインで行うことになり、かなり対応に苦慮した。特に技術的な面での対応が遅れ、英語でのグループワークをさせることはできたが、口頭発表ができなかったことは残念であった。

アンケートの回答率が6割なので断定はできないが、回答した者のうち7割以上が問1、また6割が問2に肯定的な回答をしていることを踏まえると、授業としては概ねうまくいったと考えている。残り3割～4割については、具体的な記述等が少ないので詳しくは分からないが、1年生でいきなりオンライン授業になったことで戸惑ったものがいたのではないかと考えている。

改善点としては、学生への個別のフィードバックが足りなかったと思うので、その点を今後改善したい。